

(4)地域間幹線系統確保維持計画について

1 地域間幹線系統確保維持計画

路線名	運行事業者	運行区間	運行距離(Km)	運行日	日運行回数	輸送人員(人)		
						H26	H27	H28
菅平高原線	上田/バス(株)	上田駅～西菅平 大松	29.2 31.7	毎日運行	18 3	109,008	104,037	104,671
真田線	上田/バス(株)	上田駅～真田	11.9	毎日運行	16	26,741	30,924	38,996
真田自治センター 入口線	上田/バス(株)	上田駅～真田自治センター入口	10.5	平日・土曜のみ運行	30	36,544	46,870	56,769
鹿教湯線	千曲/バス(株)	下秋和～鹿教湯車庫 下秋和～丸子	32.4 16.7	毎日運行	25 16	352,303	382,832	389,664
青木線	千曲/バス(株)	下秋和～青木	16.4	毎日運行	32	191,985	201,671	205,835
佐久上田線	千曲/バス(株)	下秋和～勝間	42.4	平日のみ運行	11	293,315	203,654	198,675

2 地域間幹線系統車両取得計画

路線名	運行事業者	運行区間	運行距離(Km)	運行日	日運行回数	輸送人員(人)		
						H26	H27	H28
真田線	上田/バス(株)	上田駅～真田	11.9	毎日運行	16	26,741	30,924	38,996
青木線	千曲/バス(株)	下秋和～青木	16.4	毎日運行	32	191,985	201,671	205,835

地域間幹線系統別確保維持計画

平成 29 年 5 月 31 日

(住所) 上田市蒼久保 1101-2

(名称) 上田バス株式会社

(代表者名) 遠藤 孝

印

1. 幹線系統名、区間及び計画期間	
系統名	菅平高原 線
運行区間	上田駅 ~ 西菅平または大松
計画期間	平成29年10月1日~平成32年9月30日

2. 幹線系統の運行に係る目的・必要性(生活交通路線である理由・路線の状況)
上田市住民の通学、通院、買い物等のため

3. 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果
(1) 運行の目標
輸送量 43.6 人を維持する
(2) 運行による効果
菅平線を維持することにより、住民の日常生活に絶対必要な移動手段を確保することができ、地域の交通ネットワークにおける幹線の役割を維持する。また収支改善に努めることにより計画期間中継続して運行し、公共交通としての役割を担うことができる。

4. 費用負担額		負担額			
補助対象期間	欠損見込額*	国	県	市町村	事業者
		円	円	円	円
H29. 10~H30. 9	円	円	円	円	円
H30. 10~H31. 9	円	円	円	円	円
H31. 10~H32. 9	円	円	円	円	円

*欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

5. 収益改善のために行った取組状況

真田地域公共交通利用促進協議会の発足により、より多くの住民にバス利用についての啓蒙活動を行うことができた。地元小学生対象にバスの乗り方教室を開催した。路線バスの車体デザインについて、地元中学校及び自治センターロビーで投票を行い新デザインを決定した。

6. 今後の収益改善に向けた取組

上田市及び真田地域公共交通利用促進協議会と合同で路線バス利用促進に向け広報活動を行う。

7. 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について

【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表3に定める広域行政圏以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 上田市蒼久保 1101-2

(所 属)

(氏 名) 舟見哲也

(電 話) 0268-34-6602

(F A X) 0268-34-6601

(e-mail) t.funami@uedabus.co.jp

地域間幹線系統別確保維持計画

平成 29 年 5 月 31 日

(住所) 上田市蒼久保 1101-2

(名称) 上田バス株式会社

(代表者名) 遠藤 孝

印

1. 幹線系統名、区間及び計画期間	
系統名	: 真田 線
運行区間	: 上田駅 ~ 真田
計画期間	: 平成29年10月1日~平成32年9月30日

2. 幹線系統の運行に係る目的・必要性(生活交通路線である理由・路線の状況)
上田市住民の通学、通院、買い物等のため

3. 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果
(1) 運行の目標
輸送量 19.4 人を維持する
(2) 運行による効果
真田線を維持することにより、住民の日常生活に絶対必要な移動手段を確保することができ、地域の交通ネットワークにおける幹線の役割を維持する。また収支改善に努めることにより計画期間中継続して運行し、公共交通としての役割を担うことができる。

4. 費用負担額					
補助対象期間	欠損見込額*	負担額			
		国	県	市町村	事業者
H29.10~H30.9	円	円	円	円	円
H30.10~H31.9	円	円	円	円	円
H31.10~H32.9	円	円	円	円	円

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

5. 収益改善のために行った取組状況

真田地域公共交通利用促進協議会の発足により、より多くの住民にバス利用についての啓蒙活動を行うことができた。地元小学生対象にバスの乗り方教室を開催した。路線バスの車体デザインについて、地元中学校及び自治センターロビーで投票を行い新デザインを決定した。

6. 今後の収益改善に向けた取組

上田市及び真田地域公共交通利用促進協議会と合同で路線バス利用促進に向け広報活動を行う。

7. 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について

【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表3に定める広域行政圏以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 上田市蒼久保 1101-2

(所 属)

(氏 名) 舟見哲也

(電 話) 0268-34-6602

(F A X) 0268-34-6601

(e-mail) t.funami@uedabus.co.jp

地域間幹線系統別確保維持計画

平成 29 年 5 月 31 日

(住所) 上田市蕎麦久保 1101-2

(名称) 上田バス株式会社

(代表者名) 遠藤 孝 印

1. 幹線系統名、区間及び計画期間	
系 統 名	: 真田自治センター入口 線
運 行 区 間	: 上田駅 ~ 真田自治センター入口
計 画 期 間	: 平成29年10月1日~平成32年9月30日

2. 幹線系統の運行に係る目的・必要性(生活交通路線である理由・路線の状況)
上田市住民の通学、通院、買い物等のため

3. 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果
(1) 運行の目標
輸送量 32.7 人を維持する
(2) 運行による効果
真田自治センター入口線を維持することにより、住民の日常生活に絶対必要な移動手段を確保することができ、地域の交通ネットワークにおける幹線の役割を維持する。また収支改善に努めることにより計画期間中継続して運行し、公共交通としての役割を担うことができる。

4. 費用負担額					
補助対象期間	欠損見込額*	負担額			
		国	県	市町村	事業者
H29.10~H30.9	円	円	円	円	円
H30.10~H31.9	円	円	円	円	円
H31.10~H32.9	円	円	円	円	円

*欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

5. 収益改善のために行った取組状況

真田地域公共交通利用促進協議会の発足により、より多くの住民にバス利用についての啓蒙活動を行うことができた。地元小学生対象にバスの乗り方教室を開催した。路線バスの車体デザインについて、地元中学校及び自治センターロビーで投票を行い新デザインを決定した。

6. 今後の収益改善に向けた取組

上田市及び真田地域公共交通利用促進協議会と合同で路線バス利用促進に向け広報活動を行う。

7. 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について

【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表3に定める広域行政圏以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 上田市蒼久保 1101-2

(所 属)

(氏 名) 舟見哲也

(電 話) 0268-34-6602

(F A X) 0268-34-6601

(e-mail) t.funami@uedabus.co.jp

地域間幹線系統別確保維持計画

平成29年5月31日

(住所) 長野県佐久市野沢20番地
 (名称) 千曲バス株式会社
 (代表者名) 代表取締役 高野 公秀

1 幹線系統名、区間及び計画期間	
系統名	: 鹿教湯線
運行区間	: 鹿教湯車庫～下秋和
計画期間	: 平成29年10月1日～平成32年9月30日

2 幹線系統の運行に係る目的・必要性（生活交通路線である理由・路線の状況）	
<p>上田市公共交通活性化協議会において生活交通路線として承認を頂いております鹿教湯線（鹿教湯～下秋和）は、鹿教湯病院・丸子中央病院・大屋駅・上田駅・高等学校等への通院・通勤・通学の交通手段として、車を運転できない高齢者及び学生を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。</p> <p>しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、鹿教湯線の公共交通機関の利用者は減少を続けており、当該路線は収支悪化等により様々な問題を抱えていたが、25年10月からの運賃低減施策により、バス利用者は着実に増えていることから、今後も地域住民の通院・通学・買い物を中心とした生活に不可欠な当該路線を存続していくことが必要である。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持事業により、鹿教湯線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく。</p>	

3 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果	
(1) 運行の目標	
<p>鹿教湯線の運行コストを地域キロ当り標準経常費用以内とする。 鹿教湯線の輸送量を50.00以上で維持する。</p>	
(2) 運行による効果	
<p>鹿教湯線を維持することにより、上田市の高齢者・学生などの日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。また、幹線・支線のネットワークが連携することで、効率的な運行体系が実現できる。さらには、外出促進・地域活性化にもつながる。</p>	

4. 費用負担額					
補助対象期間	欠損見込額*	負担額			
		国	県	市町村	事業者
H29. 10~H30. 9	円	円	円	円	円
H30. 10~H31. 9	円	円	円	円	円
H31. 10~H32. 9	円	円	円	円	円

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

5. 収益改善のために行った取組状況
<ul style="list-style-type: none"> ・キッズバス施策 ・時刻表の配布（無料配布） ・市内運賃低減バス施策 ・バス車内に期間限定のデコレーション ・バス車内にバスの塗り絵を掲示 ・利用促進啓発活動 ・回数券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン

6. 今後の収益改善に向けた取組
<ul style="list-style-type: none"> ・市内運賃低減バス施策の継続的な実施 ・キッズバス施策の継続的な実施 ・利用者からの声を反映させた適正なダイヤへの変更 ・車内デコレーションなどの継続的な実施 ・利用促進啓発活動 ・回数券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン

7. 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について
【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表3に定める広域行政圏以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 長野県小諸市加増 581-1

(所 属) 千曲バス株式会社

(氏 名) 山崎 康太郎

(電 話) 0267-26-2600

(F A X) 0267-24-2610

(e-mail) eigyo@chikuma-bus.co.jp

地域間幹線系統別確保維持計画

平成29年5月31日

(住所) 長野県佐久市野沢20番地
(名称) 千曲バス株式会社
(代表者名) 代表取締役 高野 公秀

1. 幹線系統名、区間及び計画期間	
系統名	: 鹿教湯線
運行区間	: 丸子～下秋和
計画期間	: 平成29年10月1日～平成32年9月30日

2. 幹線系統の運行に係る目的・必要性(生活交通路線である理由・路線の状況)
<p>上田市公共交通活性化協議会において生活交通路線として承認を頂いております鹿教湯線(鹿教湯～下秋和)は、鹿教湯病院・丸子中央病院・大屋駅・上田駅・高等学校等への通院・通勤・通学の交通手段として、車を運転できない高齢者及び学生を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。</p> <p>しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、鹿教湯線の公共交通機関の利用者は減少を続けており、当該路線は収支悪化等により様々な問題を抱えていたが、25年10月からの運賃低減施策により、バス利用者は着実に増えていることから、今後も地域住民の通院・通学・買い物を中心とした生活に不可欠な当該路線を存続していくことが必要である。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持事業により、鹿教湯線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく。</p>

3. 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果
<p>(1) 運行の目標</p> <p>鹿教湯線の運行コストを地域キロ当り標準経常費用以内とする。 鹿教湯線の輸送量を60.00以上で維持する。</p>
<p>(2) 運行による効果</p> <p>鹿教湯線を維持することにより、上田市の高齢者及び学生の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。また、幹線・支線のネットワークが連携することで、効率的な運行体系が実現できる。さらには、外出促進・地域活性化にもつながる。</p>

4. 費用負担額					
補助対象期間	欠損見込額*	負担額			
		国	県	市町村	事業者
H29. 10～H30. 9	円	円	円	円	円
H30. 10～H31. 9	円	円	円	円	円
H31. 10～H32. 9	円	円	円	円	円

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

5. 収益改善のために行った取組状況
<ul style="list-style-type: none"> ・キッズバス施策 ・時刻表の配布（無料配布） ・市内運賃低減バス施策 ・バス車内に期間限定のデコレーション ・バス車内にバスの塗り絵を掲示 ・利用促進啓発活動 ・回数券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン

6. 今後の収益改善に向けた取組
<ul style="list-style-type: none"> ・市内運賃低減バス施策の継続的な実施 ・キッズバス施策の継続的な実施 ・利用者からの声を反映させた適正なダイヤへの変更 ・車内デコレーションなどの継続的な実施 ・利用促進啓発活動 ・回数券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン

7. 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について
【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表3に定める広域行政圏以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 長野県小諸市加増 581-1

(所 属) 千曲バス株式会社

(氏 名) 山崎 康太郎

(電 話) 0267-26-2600

(FAX) 0267-24-2610

(e-mail) eigyo@chikuma-bus.co.jp

地域間幹線系統別確保維持計画

平成29年5月31日

(住所) 長野県佐久市野沢20番地
(名称) 千曲バス株式会社
(代表者名) 代表取締役 高野 公秀

1. 幹線系統名 区間及び計画期間	
系統名	: 青木線
運行区間	: 下秋和～青木
計画期間	: 平成29年10月1日～平成32年9月30日

2. 幹線系統の運行に係る目的・必要性 (生活交通路線である理由・路線の状況)	
<p>上田市公共交通活性化協議会において生活交通路線として承認を頂いております青木線(下秋和～青木)は、上田駅・高等学校等への通院・通勤・通学の交通手段として、車を運転できない高齢者及び学生を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。</p> <p>しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、青木線の公共交通機関の利用者は減少を続けており、当該路線は収支悪化等により様々な問題を抱えていたが、25年10月からの運賃低減施策により、バス利用者は着実に増えていることから、今後も地域住民の通院・通学・買い物を中心とした生活に不可欠な当該路線を存続していくことが必要である。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持事業により、青木線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく。</p>	

3. 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果	
(1) 運行の目標	
<p>青木の運行コストを地域キロ当たり標準経常費用以内とする。 青木線の輸送量を70.00以上で維持する。</p>	
(2) 運行による効果	
<p>青木線を維持することにより、上田市の高齢者及び学生の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。また、幹線・支線のネットワークが連携することで、効率的な運行体系が実現できる。さらには、外出促進・地域活性化にもつながる。</p>	

4 費用負担額					
補助対象期間	欠損見込額*	負担額			
		国	県	市町村	事業者
H29.10~H30.9	円	円	円	円	円
H30.10~H31.9	円	円	円	円	円
H31.10~H32.9	円	円	円	円	円

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

5 収益改善のために行った取組状況
<ul style="list-style-type: none"> ・キッズバス施策 ・時刻表の配布（無料配布） ・青木村と連携した市内運賃低減バス施策 ・バス車内に期間限定のデコレーション ・バスの車内にバスの塗り絵を掲示 ・利用促進啓発活動 ・回数券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン

6 今後の収益改善に向けた取組
<ul style="list-style-type: none"> ・市内運賃低減バス施策の継続的な実施 ・キッズバス施策の継続的な実施 ・利用者からの声を反映させた適正なダイヤへの変更 ・車内デコレーションなどの継続的な実施 ・利用促進啓発活動 ・回数券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン

7 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について
【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表3に定める広域行政圏以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 長野県小諸市加増 581-1

(所 属) 千曲バス株式会社

(氏 名) 山崎 康太郎

(電 話) 0267-26-2600

(F A X) 0267-24-2610

(e-mail) eigyo@chikuma-bus.co.jp

地域間幹線系統別確保維持計画

平成29年5月31日

(住所) 長野県佐久市野沢20番地
 (名称) 千曲バス株式会社
 (代表者名) 代表取締役 高野 公秀

1. 幹線系統名、区間及び計画期間

系統名 : 佐久上田線
 運行区間 : 勝間～下秋和
 計画期間 : 平成29年10月1日～平成32年9月30日

2. 幹線系統の運行に係る目的・必要性(生活交通路線である理由・路線の状況)

上田市公共交通活性化協議会において生活交通路線として承認を頂いております佐久上田線(勝間～下秋和)は、佐久総合病院・佐久医療センター・小諸厚生病院・佐久平駅・上田駅・高等学校等への通院・通勤・通学の交通手段として、車を運転できない高齢者及び学生を中心に、生活に必要不可欠な交通として機能している。

しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、佐久上田線の公共交通機関の利用者は減少を続けており、当該路線は収支悪化等により自主運行では路線の存続が厳しい現状となっております。

地域住民の通院・通学・買い物を中心とした生活に不可欠な当該路線を存続していくためには、今後も平日1日当たりの運行回数が3回以上の系統として輸送量を確保するとともに、行政の支援を受けながら当該路線を存続していくことを必要とする。

このため、地域公共交通確保維持事業により、佐久上田線を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていく。

3. 幹線系統の運行に係る定量的な目標及び効果

(1) 運行の目標

佐久上田線の運行コストを地域キロ当たり標準経常費用以内とする。
 佐久上田線の輸送量を15.00以上で維持する。

(2) 運行による効果

佐久上田線を維持することにより、上田市の高齢者及び学生の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。また、幹線・支線のネットワークが連携することで、効率的な運行体系が実現できる。さらには、外出促進・地域活性化にもつながる。

4. 費用負担額					
補助対象期間	欠損見込額*	負担額			
		国	県	市町村	事業者
H29. 10～H30. 9	円	円	円	円	円
H30. 10～H31. 9	円	円	円	円	円
H31. 10～H32. 9	円	円	円	円	円

※欠損見込額とは、補助対象経常費用の見込額から経常収益の見込額を控除した額

5. 収益改善のために行った取組状況
<ul style="list-style-type: none"> ・キッズバス施策 ・時刻表の配布（無料配布） ・市内運賃低減バス施策 ・バス車内に期間限定のデコレーション ・バス車内にバスの塗り絵を掲示 ・利用促進啓発活動 ・回数券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン ・運行系統の整理および沿線4市による欠損金の支援

6. 今後の収益改善に向けた取組
<ul style="list-style-type: none"> ・運賃低減バス施策の継続的な実施 ・キッズバス施策の継続的な実施 ・利用者からの声を反映させた適正なダイヤへの変更 ・車内デコレーションなどの継続的な実施 ・利用促進啓発活動 ・回数券購入のお客様に期間限定のプレゼントキャンペーン

7. 広域行政圏の中心市町村に準ずる市町村であるという相当の理由について
【地域公共交通確保維持改善事業補助金交付要綱別表3に定める広域行政圏以外へアクセスする路線の場合に記入】

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 長野県小諸市加増 581-1

(所 属) 千曲バス株式会社

(氏 名) 山崎 康太郎

(電 話) 0267-26-2600

(FAX) 0267-24-2610

(e-mail) eigyo@chikuma-bus.co.jp

地域間幹線系統車両取得計画

平成29年5月31日

(住所) 上田市蒼久保1101-2

(名称) 上田バス株式会社

(代表者名) 代表取締役社長 遠藤 孝 印

1. 新規車両の導入を予定する幹線系統名、区間及び導入予定年月

系 統 名 : 真田線
 運 行 区 間 : 上田駅 ~ 真田
 導入予定年月 : 平成30年 1月

2. 車両の取得に係る目的・必要性

生活交通路線を運行している車両の老朽化に対応するため、新たに車両を代替し車両経費の軽減と事業収益の改善を図るとともに、生活路線の運行維持ならびに利用者へのサービス向上を図る。

3. 車両の取得に係る定量的な目標及び効果

(1) 新規車両導入に係る目標

老朽化した車両との代替により、燃料費等の経費の軽減を図る。
 運行車両燃費：3.5キロメートル/L → 4.0キロメートル/L

(2) 新規車両導入に係る効果

新車を導入することで、燃料費等の経費を削減し、事業の収支改善が図られる他、地球温暖化対策に貢献できる。

4. 車両の取得の概要

車両取得台数	1台
車両購入予定費	23,220,000円(消費税・付帯費用込)

5. 費用負担額

	国	県	その他	事業者
初年度	円	円	円	円
2年目	円	円	円	円
3年目	円	円	円	円
4年目	円	円	円	円
5年目	円	円	円	円
合計	円	円	円	円

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 上田市蒼久保1101-2

(所 属) 上田バス株式会社

(氏 名) 舟見 哲也

(電 話) 0268-34-6602

(F A X) 0268-34-6601

(e-mail) t.funami@uedabus.co.jp

地域間幹線系統車両取得計画

平成29年5月31日

(住所) 長野県佐久市野沢20番地
(名称) 千曲バス株式会社
(代表者名) 代表取締役 高野 公秀

1. 新規車両の導入を予定する幹線系統名、区間及び導入予定年月

系 統 名 : 青木線
運 行 区 間 : 下秋和～青木
導入予定年月 : 平成30年6月

2. 車両の取得に係る目的・必要性

青木線に使用中の車両1台については、青木村から上田市へ通院・通学・通勤や買い物されるお客様が多いなかで、大型車両については中古車両の代替を行っているが、低床型(ノンステップ・スロープ付)中型車両を購入して安全運行を図りたい。
また、車両の老朽化も進んでいるなかで自己資金での車両を購入が難しいため。

3. 車両の取得に係る定量的な目標及び効果

(1) 新規車両導入に係る目標

青木線の輸送量70.00以上を維持する。
運行車両燃費を10あたり4km以上とする。

(2) 新規車両導入に係る効果

高齢者や障害者にとって乗りやすい車両になり、利便性・安全性が向上する。

4. 車両の取得の概要

車両取得台数	1台
車両購入予定費	円

5 費用負担額（車両減価償却費＋金融費用）				
	国	県	その他	事業者
初年度	円	円	円	円
2年目	円	円	円	円
3年目	円	円	円	円
4年目	円	円	円	円
5年目	円	円	円	円
6年目	円	円	円	円
合計	円	円	円	円

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 長野県小諸市加増 581-1

(所 属) 千曲バス株式会社

(氏 名) 三浦 裕

(電 話) 0267-26-2600

(F A X) 0267-24-2610

(e-mail) eigyo@chikuma-bus.co.jp